令和6年度　大田区立蓮沼中学校　自己評価　報告書

令和7年2月17日

〇　本校の概要

生徒数414名、学級数通常学級12学級、特別支援学級4学級、教員数は30名である。「人権を尊重する生徒の育成」「自ら学ぶ生徒の育成」「心身ともに健全な生徒の育成」という教育目標を掲げ、一人一人の社会的・職業的自律に向け、必要な基盤となる能力や態度を育て、夢と希望をもって未来を拓く生徒の育成を目指している。

〇　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標１ 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	「私は、友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とアンケートで回答した生徒	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	【取組】 ・教科等、生徒間、教員ー生徒間で話し合う機会をできるだけ多く設定できた。今後は、"何を"話し合わせるのか、内容をさらに深化させていけるように取り組んでいく。 ・話し合い活動やグループワークを通して、生徒同士が考えを深め共有する授業の実践に努めた。 ・教員や介添員との協働や協働学習をしている生徒を見学するという協働など多様な協働学習を取り入れている。 ・相手に説明することで説明する側の理解も深まり、協働することで解決できるという小さな体験を積むことが大切だと思い取り組んできた。今後も継続していきたい。 ・教科的の授業で、社会問題や生徒に身近な出来事をテーマにし、ICT機器を活用しながらクラスやグループで課題解決的な取り組みをした。 ・協働的な学びが推進されていたため、授業内で生徒同士が話し合う機会が多かったと考える。80%という高い数値を保つためにも、継続的に協働的に学習を進めていきたい。 ・総合的な学習の時間「かけはし」において、全体計画や各学年の年間計画等に基づいて、課題解決力・自ら考え判断する力・他者と協働していく力・情報活用能力等を高めようとしていた。 ・「データの分析」におけるデータ収集活動やICTを用いた分析、それを元にした意思決定、移動教室などの活動を通して、他者と協働していく力を養うことができた。 ・「発表」と「話し合い」の違いを明確にし、カリキュラム・マネジメントに取り組んだ。 【改善策】 ・情報活用能力に関する指導内容を明確化して、適宜指導できるように授業計画を見直す。 ・タブレット端末のさらなる活用を指導計画の中に組み込んでいく。	A B C D	5 3 0 0	・個人の知識が学習している間に高まっているのではないか。わからないことがあれば、調べて自分の知識を増やしてほしいです。 ・登下校時に複数の生徒たちが歓談しながら歩いている姿をよく見かけます。友達との関係性がよいのだろう、と思われますし、そのことは協働ということにもつながっていくと思います。 ・授業において、協働的な学びが見られました。タブレットの使用だけでなく、3年生の英語の授業では少人数で話し合い、助け合いながら発表する様子が見られました。 ・情報技術の活用に今後とも注力願います。 ・生徒が考え、自分で決められることは素晴らしいと思います。これからの人間に大切なことです。 ・自ら考え、それを伝えること、そして他の考えを知り、深めることで、解決していく経験を積ませてほしい。 ・仲良しグループではなく、目標・目的に向かって協働するグループを体感するには、不断の取り組みが必要です。中学卒業以降にも生きるよう、今後ともよろしくお願いします。 ・端末機器活用の基礎固めを義務教育段階でしっかり取り組んでほしい。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2							
個別目標２ 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	「自分たちの未来のために地球環境保全やSDGs等に関心をもち、その実現に向けて何かしたいと思う」とアンケートで回答した生徒	4:70%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:50%未満	4	【取組】 ・授業を通して、日本と外国との関わりを身近な例を通して伝えることができた。総合の時間や外国語の時間と連携を取りながら、「世界」を身近に感じる授業をつくっていきたい。 ・生徒はSDGs学習を継続して行うことで、SDGsの各目標について理解を深めることができている。今後は、複数年の学習成果として"何を"社会に提案できるのか、さらに深化させていけるように取り組んでいく。 ・修学旅行を通して、日本の代表的な古都京都や奈良が伝統文化の保全に関して具体的にどのように取り組んでいるのかを生徒がSDG's に基づき観察し学ばせた。 ・英語の授業では環境問題や自然環境の保護、伝統文化の継承などの問題について教科書を基に英語で学び、考える取り組みをした。 ・オリンピックなどの世界的な規模の大会の学習により、自国と他国の文化を知るよう指導している。 ・総合的な学習の時間「かけはし」の中の、「地域(ひと)へのかけはし」において、全体計画や年間計画等に基づいて国際理解教育を進めるとともに、「未来(あす)へのかけはし」において、SDGs学習を進め、地球規模の課題を我が事として捉える取組を行った 。・エコキャップ活動を通して環境や世界情勢に関心を持つように取り組んでいる。他国のことを学習して理解した上で、現代社会における地球規模の課題を考えさせることができた。 ・学年として、１年生からSDGsの取り組みを継続して行っている。自分ごととして考え続けられるように、様々な活動を通してSDGsを扱っていきたい。 ・国際理解講座から、自国の文化と他国の文化について理解し、互いに尊重し合う心の育成を図った。	A B C D	5 3 0 0	・世界を意識し、尊重しあう心を学び、親しく楽しく会話や行動ができるように授業に生かしていただきたい。 ・英語の会話力の向上のため、学校中で積極的に英語を使用するなど。 ・エコキャップ活動をおなづか小学校の児童たちにも広めるなど、生徒たちは主体的にSDGsに取り組んでいる、と感じています。 ・国際感覚の育成に伴う英語力を高める教育を強く感じます。 ・日本の教育は、英語を中心としていますが、地域には多くの国の人が住んでいますので、他の習慣を目にすると思います。自分の考え方に合わせてみて、文化を学べるのではないか。 ・「使える英語」について、中学段階で身につけるべきことを確実にお願いします。 ・SDGsや環境問題について、日常生活での継続を図っていただきたい。 ・SDGsについては、１年生からの取り組みと修学旅行でも関連する学習に接することで身近に感じている。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標３ 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	「自分にはよいところがあると思う」と回答した生徒	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【取組】 ・道徳では、話し合い活動を中心とした授業実践をし、生徒が互いの価値観を共有しながら、自身の考えを深めることができた。今後も、多様な価値観に触れながら、生徒の道徳心と豊かな情操を育めるよう取り組んでいく。 ・生徒一人一人が持つ能力や個性を発揮してもいいという雰囲気・環境をつくるよう心掛けた。 ・生徒に任せられる仕事は任せ、小さなことから大きなことまで様々な成功体験を積ませ、自己肯定感の向上を意識した。 ・個別指導計画や学校生活支援シートなどを活用し、小学校の先生および保護者との連携だけではなく、療育機関や放課後デイサービスなどの外部機関との連携を重視し、一貫性のある教育を実施している。来年度も継続していく。 ・習熟度別少人数授業を行っているため、習熟度に応じた指導は概ねできている。 ・必要な生徒には面談だけでなく様々な場面で個別に相談を受け解決を図るなど、生徒の心の育成に取り組んだ。 ・個に応じた学習指導や習熟度別の学習により、生徒一人ひとりに適切な学習を提供することで、生徒の自己肯定感を向上させることができた。 ・小中一貫教育の日に限らず、小中一貫教育の視点に立った教育を常日頃から進めている。 ・保健の授業において食や心身の発達などについて学習を行った。今後は家庭科や社会科等と教科横断的に学習を行って行けると、より学習意欲の向上につながると考える。 ・5月10月の早寝早起き朝ごはん月間において、生活チェックを行い生活習慣の振りかえりを行っている。 ・教科と道徳等で自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成のために、話し合い活動を多く取り入れることができた。今後はより身近な出来事を題材としてとりあげ、話し合い活動を多く設定していく。 ・生活指導を行う中で生徒の自己肯定感や事故有用間の向上を図る。 【改善策】 ・習熟度別授業では、個に応じた支援では課題があるため、4人組での活動を増やし理解を深めさせることと、小中一貫の視点で、小学校でのつまずきを把握すことで個に応じた支援を考え実践していきたい。	A B C D	4 4 0 0	・先生方が大変だと思いますが、一人ひとりを見ていることが、いじめや家庭環境等が把握でき、よいことだと思います。 ・運動会を参観しました。運営に積極的にかかわっている生徒たち、暑い中笑顔でそして全力で競技をしている生徒たちの姿を拝見して、とても素晴らしいと思いました。 ・おなづか小学校においても同じように取り組んでいるように思います。 ・個性を尊重し、自己肯定感の向上を意識した取り組みを今後も続けてもらいたい。 ・取り組み内容に対して、成果指標がこれでいいのでしょうか。取り組み以前と、以後とで比較して、自己肯定感が高まったことがわかるような指標にすべきではないでしょうか。 ・3学年の数学の授業では、学習習熟度に応じたクラス分けを行っており、生徒の理解と学習意欲向上につながっている。 ・豊かな情操・道徳心の育成や、体育を通じた個性豊かな人間性を育てていただきたい。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標４ 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	「先生は、わかりやすく工夫した授業と、適切な評価を行っている」とアンケートで回答した生徒	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【取組】 ・言語活動を中心とした授業実践を行い、生徒が思考、判断、表現する機会を多く設定できている。 ・部活動などを通して学年問わず生徒の様子を見守り、コミュニケーションの充実を図った。 ・少人数指導の中で、さらに個々の能力に応じた個別指導や、ペアやグループを中心とした協働学習での学び合いを意識し授業に取り組んだ。 ・学年主任として学年内の業務を中心に効率化と生徒・保護者へのわかりやすさを考えて取り組んだ。 ・集団の中で自分が生きる部分を探し、そこに注力して学校経営に貢献しようとしている。 ・授業については授業ごと、単元、学期などその都度振り返り、授業改善につなげている。 ・SC、支援員、相談員の方とコミュニケーションを密にし、生徒情報の共有を行っている。 ・「主体的、対話的で深い学び」を実現させるために、各単元で必ず4人班による「自分の意見・考えを伝え合う」言語活動を行っている。 ・常日頃から個別最適な学びや協働的な学びの視点に立った授業、主体的・対話的で深い学びとなるような授業を目指している。 ・グループやペアによる話し合い活動を多く取り入れることで、協働的な学びの実現を目指している。また、個別最適な学びの実現として、習熟度別によるスモールステップも種目によっては取り入れている。しかし、生徒たちがその時間を十分に活用しきれていない様子が見受けられる。 ・OJT研修を受け、生徒への対応の仕方や授業作りなどの改善点を知ることができた。 ・授業者と生徒の双方向コミュニケーションが図れる授業づくりを意識している。 ・運動の苦手な生徒にも楽しくなるようにルールを変えたり、道具に工夫した。・授業評価を行い、分析する中で課題を見出し、教材研究・授業計画を繰り返し行った。 【改善策】 ・客観的な根拠と管理職、教職員双方の視点による業務改善を学期ごとに行っていく。 ・3段階の分類に基づき、学校が宇こなうべき業務について1年かけて精査を行う。	A B C D	1 6 1 1	・努力されています。 ・蓮中祭(展示部門)を拝見しました。生徒たちの個性的な作品、技術力の高い作品を見て、彼らの可能性に感心すると共に、先生方のご指導の偉大さを感じました。 ・できるだけ苦手なことを少なくしてほしいです。 ・蓮沼中の先生方皆さんが努力されていることと、授業がわかりやすいと感じ、先生方のことを信頼していることが伝わってきます。 ・自信をもった教育方針に従って、今後も推進願います。 ・授業において、生徒と先生の双方向コミュニケーションの場が少なく感じる。グループディスカッションをしている際に、単に見て回るだけでなく、助言などしてもよいと思う。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	2							
		④「主体的、対話的で深い学び」に取り組み、言語活動を充実させるために授業を工夫する。	4:全教員で行った 3:80%以上100%未満が「おおむね行っている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね行っている」と回答した。 1:「おおむね行っている」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標５ 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	「先生は、生徒の意見や要望に耳を傾け、悩みなどの相談にのってくれる」とアンケートで回答した生徒	4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	3	【取組】 ・学年担任制も生かしながら、生徒が話しやすい環境づくりを行うことができている。 ・不登校傾向の生徒に対して、定期的に個人面談を行い、普段の様子や悩みなどを聞き、安心して話すことができる居場所をつくることを心掛けた。 ・生徒や保護者の個別の教育的ニーズに応じて、三者面談や保護者面談にスクールカウンセラーに入って適切な支援を行うことができた。 ・別室に登校できる生徒が増え、不登校傾向の生徒の居場所作りはできている。別室に登校できない生徒のサポートとして外部との連携をさらに進めていきたい。 ・進学指導については、全く登校できていない生徒についても、保護者との面談や本人との電話で支援、相談を行い、本人に適したサポートを行えた。 ・集団に馴染めない生徒について、SC、支援員、養護教諭と協力して支援を行った。 ・特別な対応が必要な生徒が多く、都度相談し毎日別室に通えるように環境を整えた。来年度も引き続き報告・連絡・相談を密に取り、生徒一人ひとりが安心して学校に通えるように尽力していく。 ・学年での打ち合わせや、いじめ不登校対策委員会で生徒情報を綿密に共有することにより、いじめや不登校に繋がりそうな事案を、早期に発見し対応することができた。 ・不登校傾向の生徒が安心して過ごせるように、別室の環境を整えた。 ・細かな対応や声掛けなどにより、年度当初よりも生徒間トラブルの件数や程度が改善された。 ・QU等で生徒の実態を把握した。朝や昼休みなど、できるだけ多くの時間を生徒のそばで過ごし、生徒観察にも力を入れ、気になる生徒は個別に話をしたりした。今後も生徒の個性を把握し、一人一人にあった支援をしていく。 ・授業では能力に合わせた教材を準備して行った。 ・生徒情報の共有を学年会や介添員を含む打ち合わせ会議にて行った。 ・安全・安心して学校生活を送れる環境を組織の方針に沿って整えるべく学校生活を通して指導した。 【改善策】 ・学年の教員との連携を密にし、生徒の困り感・悩みの解消を引き続き行うことが挙げられる。	A B C D	3 2 2 1	・私はプロではないので、原因の解消と出てこられる環境を作れればいいと思う。今の蓮沼中学校は、その生徒にとってよい環境をアピールして、勇気を出してくれれば、先生方が寄り添えば大丈夫だと思う。 ・学校が生徒一人ひとりを尊重して、真摯に向き合っていると感じます。 ・一人ひとりの指導は、苦労も多く大変だと思います。 ・いじめの未然防止、早期発見は大切であり、これからも教員間の連携を密にしてほしいです。 ・成果指標の残り30%程度の生徒は、何をどう感じているのかが気になる。 ・不登校傾向や、別室登校生徒に対して、普通に通えている生徒との関わりをもつべきである。給食を届けに行っても、先生に渡すだけで、生徒との接触がないのであれば意味がない。 ・荒れたスクールの印象は全然感じられません。通学に抵抗のない環境づくりを。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		④不登校(傾向)生徒減少につながる学習支援や安心できる居場所作りを推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標６ 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	「避難訓練や安全指導日などを通して、危機や災害に対して、周囲の人と話し合ったり、備えたりしている」とアンケートで回答した生徒	4:70%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:50%未満	3	【取組】 ・学習環境の整備に努め、生徒が学ぶ上で安心できる環境を考え行動した・毎月の避難訓練で、より実際の災害時に近づけるよう課題や反省を担当の中で共有し次につなげた。 ・総合的な学習の時間にて防災教育を実施し、防災意識を高めることができた。 ・本年度生徒会長の公約の一つに「安心・安全な学校をつくる」がある。廊下での過ごし方や授業の受け方、危険な行動へは互いに注意し合える土壌を作るべく生徒会で話し合っている。来年度は実現に向けボランティア活動や生徒朝会での呼びかけなどを積極的に行っていく。 ・日頃から災害への備えをしていないという生徒が多い。そのため、日本が災害の多い国であるということを、避難訓練後や授業で繰り返し説明し、生徒の防災意識を高めていく。 ・ICT委員会を中心に常日頃からICT環境等の整備に取り組んでいる。・学校と地域とが連携を図り意識向上に努めていきたい。 ・危険な場所がないか確認しながら校内を巡回している。 ・校外学習では震災について学び、身の守り方や復興までを理解した上で自らに活かす術を検討した。 ・防災レポートを学校公開に来校する人向けに作成した。	A B C D	5 2 1 0	・防災意識の向上は、地域にとっても重要なことです。 ・学校、生徒会が安心安全な学校作りに力を入れていると思います。 ・二月九日におなづか小学校にて、四町会合同防災訓練がありました。その時に小学生の参加が20名程度でしたが、中学生はいませんでした。災害はいつ発生するかわからないので、次回は参加者がいればいいと思います。 ・地域でのイベントを通して、地域参画の機会を作っていけたら、地域も助かります。(避難訓練etc) ・Jアラート訓練では、ただ机の下にもぐるだけでなく、Jアラートにどんな意味があるかなど、あらためて指導が必要である。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標７ 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1	「蓮沼中学校の教育は、家庭や地域住民の願い、期待に応えている」とアンケートで回答した保護者	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	2	【取組】 ・生徒会活動や日々の保護者とのやり取りを通じて、家庭・地域との連携をすることができた。 ・行事においては、保護者の協力を得ながら運営することができた。今後は、PTAを含む地域との関わりがもてる活動を行っていき、地域との連携を深める機会を作れるよう取り組んでいく。 ・朝の校門前でのあいさつを行い、地域や保護者と連携して生徒の安全に関わる指導を実践できた。今後も地域と連携し、地域コミュニティの核を担う学校運営を行う。 ・家庭との連絡をこまめにとり、日々の生徒の情報を共有した。 ・家庭や地域が蓮沼中学校にどのような教育を期待しているのかを知り、学校ができることを考えていきたい。・下校時に門での見送り等を行っている。 ・PTAや地域の方と共同主催のイベントを計画・実行した。落ち葉掃きボランティアや防災訓練、挨拶ボランティアなど生徒が地域の方と共に、地域のためになるような活動を多く行った。来年度も地域連携を意識して、生徒を巻き込んだボランティア等を計画していきたい。 ・学年便りを通して取り組みや方向性を理解してもらえるような記事の作成に努めた。 ・地域の方々と積極的なコミュニケーションを取ることを意識して活動した。 【改善策】 ・防災訓練について、生徒の興味が湧くように教員が工夫して説明をすることや必要性を説明することによって、生徒の参加意識を向上させ、地域との繋がりを強くしていきたい。 ・CSに向けてR7から方向性を共有し、組織づくりを行う。 ・家庭教育の重要性について、各種たよりの内容を精査し、発信力を強化する。各学期、PTA運営委員会で話題にし、年1回以上、講演会を開催する。	A B C D	3 4 1 0	・青少対では、町内会、防災訓練、お祭り、ガーデンパーティー等を、毎年または2年に一度行っているので、参加してほしいです。 ・コミュニティスクール化により、社会の宝であるこどもたちの健全育成を望みます。 ・一般的に蓮中の生徒の皆さんは、礼儀正しく、おとなしく、素直という印象があります。 ・地域と連携した防災訓練については、高校でもぜひ実現したいと考えます。連携できるところを探りたいです。 ・学校公開、行事でのアンケート回収率が低い、と聞いている。保護者に興味をもってもらうための工夫、改善が必要と感じる。 ・6で示しましたが、地域との連携の環境作りにぜひ力を注いでいきたいです。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1							

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である　B:自己評価はおおむね適切である　C:自己評価は適切ではない　D:評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。